
2019 年

矢掛町産業連関表

報告書

2023 年 3 月

はじめに

今日、多くの地方自治体では人口減少と高齢化に悩み、地域経済の維持に苦勞している。矢掛町もその例外ではなく、国勢調査の常住人口で見ると戦後の1947（昭和22）年10月1日の24,592人をピークに以降、減少傾向をたどり直近の2020（令和2）年の国勢調査では14,377人と戦後から1万人以上減少している。

かねてから地域の産業振興は、雇用の創出や所得の拡大が政策目標となってきた。他方で、地域の少子化対策としては子育てのための補助金支給が中心であり、両者は相互に関連性を意識せず独立に行われていることが多い。所管する部局が異なるので、ある意味仕方ないことかも知れない。

人口動態は自然増減と社会増減から成り立っているが、自然増減と社会増減の関係は独立ではない。若い世代の転入が多くなれば自然増減は増加に向かうであろうし、逆に若い世代の転出が増えれば出生数にも負の影響を与えることになる。社会増減の要因には、雇用機会が大きく係わっている。そのことはとりもなおさず地域の産業振興策とのつながりを意味している。また、子育てのための補助施策が充実していることが周知されれば転入者の増加にもつながり社会増に貢献するであろう。このように自然増減と社会増減にはつながりがあり、地域政策の観点からすれば、産業振興策と少子化対策は連動していることが求められる。多くの地方自治体では、産業振興の手段として公共事業や企業誘致といった施策をこれまでとってきた。また、地域資源を活用した六次産業化や観光開発にも多くの自治体に取り組んでいる。しかしながら、それらが持続可能な地域経済や人口維持をもたらしているかどうかになると、その評価は難しい。その言葉の意味には、多くの自治体において活性化の効果が継続していないのではないかという点と、地域振興施策の効果自体がきちんと分析されていないという点が含まれている。

総合的な地域活性化策を効果的に展開する上では、地域の経済力を的確に把握することが不可欠である。地域の経済力を評価するためには、ある産業の生産規模といった一面だけを切り取った統計で得られる数値ではなく、地域内外との経済的な関係性を分析する必要がある。上述したように、地域振興では工場誘致策がしばしば展開されてきた。その工場誘致のために、多くの自治体では多額の財源を投入し、工業団地の造成と誘致のための営業費用を計上し、立地企業に対して優遇税制を実施してきた。工場誘致の結果、確かに雇用が生まれ、一定の経済効果が地域経済にもたらされるが、他方で雇用効果以外には、期待したほどの経済効果が地域に波及していないといった事例も少なからずある。¹ これは観光振興も同様である。こういった事例のほとんどは、誘致企業の調達構造により地元企業への発注に制約があることや、域内で生み出された付加価値が本社へ間接的に移転していることなどにより引き起こされている。

地域振興施策の効果が十分に現れない理由は、このような状況に凝縮されている。つまり、地域の産業連関構造（経済主体間の地域内・地域間の取引構造）に問題があるのである。新

¹ 雇用効果にしても、地域内の他の事業所からの転職であれば効果はゼロサムである。実際に域外からの人の流入を伴うか、新卒者の域外への転出の食い止め、さらには地域の失業者の減少につながらないといけない。

たな企業誘致をしても、その企業の連関構造が当該地域の産業構造に充分連結していないときは、想定した効果は生まれない。また、産業振興策をいくら実施しても、その資材を域外に依存するばかりであっては地域経済への還元は低い。つまり地域の産業連関構造、より専門的に言えば投入係数や移入係数、付加価値係数などを変えないと持続できる地域経済は構築できない。産業間の連関構造の希薄さは雇用の創出効果の低さにも現れる。

このような状況は、結果的に効果的な地域政策が打てなかったという点において、地域政策の失敗と捉えることもできるが、他方でこれまで地域の経済力（人・物・金）を把握し、地域の循環構造を分析した上で、効果的な地域政策を立案するといった手法が確立されていなかったことも事実である。

上述のような地域経済の構造的問題点に対し、地域経済の評価とその処方箋を講じる分析として、「地域経済構造分析」と呼ばれる手法を開発してきた。その地域経済構造分析の中核部分は、地域経済の循環分析というもので、地域間・地域内におけるヒト、財・サービス、情報、マネーの流れを定量的に把握するための分析として位置づけられる。

地域経済の連関構造を変えるには、当然、地域の産業連関構造を知る必要がある。ここでも、都道府県や政令指定都市は産業連関表という地域経済を知る手立てがあるが、多くの市町村に至ってはそれを知るよしもない。地方都市がそれを知るには独自で産業連関表を作成し、それを使った各種の政策シミュレーションを実施し、地域経済構造を把握しないとけない。

今回の調査研究は、矢掛町の地域産業連関表を、各種統計データに加えて事業所への取引構造をとらえるアンケート調査に基づいて作成したものである。いわゆるサーベイメソッドを採用した地域産業連関表である。これによって、RESAS等ノンサーベイ法で作成されている市町村産業連関表に比べて、より高い精度となっていると確信する。

岡山大学特任教授 中村良平

目次

第1章 調査の概要	1
第2章 矢掛町の経済構造	2
1. 矢掛町産業連関表の概要	2
(1) 生産額と粗付加価値額	3
(2) 従業者数と雇用者数	4
2. スカイラインチャート	5
3. 総供給、総需要	7
(1) 内生部門計	8
(2) 耕種農業	9
(3) 畜産	10
(4) 食料品	11
(5) パルプ・紙・木製品	12
(6) プラスチック・ゴム	13
(7) 金属製品	14
(8) 建設	15
(9) 卸売	16
(10) 小売	17
(11) 教育	18
(12) 医療・保健	19
(13) 宿泊業	20
(14) 飲食サービス	21
(15) その他の対個人サービス	22
4. 影響力係数と感応度係数	23
(1) 開放型	24
(2) 開放型で特徴的な部門	25
(3) 閉鎖型	26
(4) 閉鎖型で特徴的な部門	27
5. 町内歩留まり率	28
第3章 産業連関表を用いた経済波及効果分析	30
1. 観光入込客数の増加	30
(1) 発生需要額の想定	30
(2) 経済波及効果額の推計	31
2. 建設投資の効果	32
(1) 発生需要額の想定	32
(2) 経済波及効果額の推計	33
第4章 矢掛町の買い物動向調査	34

1. 調査の概要.....	34
2. 調査結果.....	35
(1) 年齢別.....	35
(2) 性別.....	36
(3) 毎月の平均収入（ボーナス、奨学金、仕送り等を含む）.....	37
(4) 職業.....	38
(5) 国籍.....	39
(6) 平均支出額.....	40
(7) 支出場所.....	41

第1章 調査の概要

矢掛町産業連関表の作成では、統計資料とアンケート調査から必要なデータを得た。

アンケート調査は 町内の事業所向けアンケートと住民向けアンケートの2種類を実施した。このうち、事業所向けアンケートアンケートの概要を以下に示した。また、住民向けアンケートの詳細については4章に記載する。

●事業所向けアンケート調査の概要

調査時期

2022年9月下旬 ～ 2023年1月中旬

調査方法

矢掛商工会の名簿に加えて、工業統計調査および経済センサスの名簿を国に申請して入手し、町内の事業に郵送した。また、工業統計調査および経済センサスの個票データも別途申請して入手し、連関表の推計に利用した。

調査数

発送数	375 先
回収数	95 先
回収率	25.3%

●住民向けアンケート調査の概要

調査時期

2022年12月中旬 ～ 2023年1月中旬

調査方法

町内の20歳から80歳までの住民を対象に、無作為に1,000人を抽出してアンケート票を郵送した。

調査数

発送数	1,000 人
回答数	309 人
回答率	30.9%

第2章 矢掛町の経済構造

1. 矢掛町産業連関表の概要

矢掛町産業連関表（2019年）における各項目の概要は、図表1のようになる。また、従業者数、雇用者数は図表2のようになる。

図表1 矢掛町産業連関表の概要

産業連関表の取引基本表

中間需要 570.4億円 中間投入 粗付加価値 507.1億円 生産額 1,077.5億円	最終需要 555.5億円	移輸出 683.4億円	移輸入 ▲731.9億円	生産額 1,077.5億円
原材料の取引				

資料：矢掛町産業連関表（2019年）

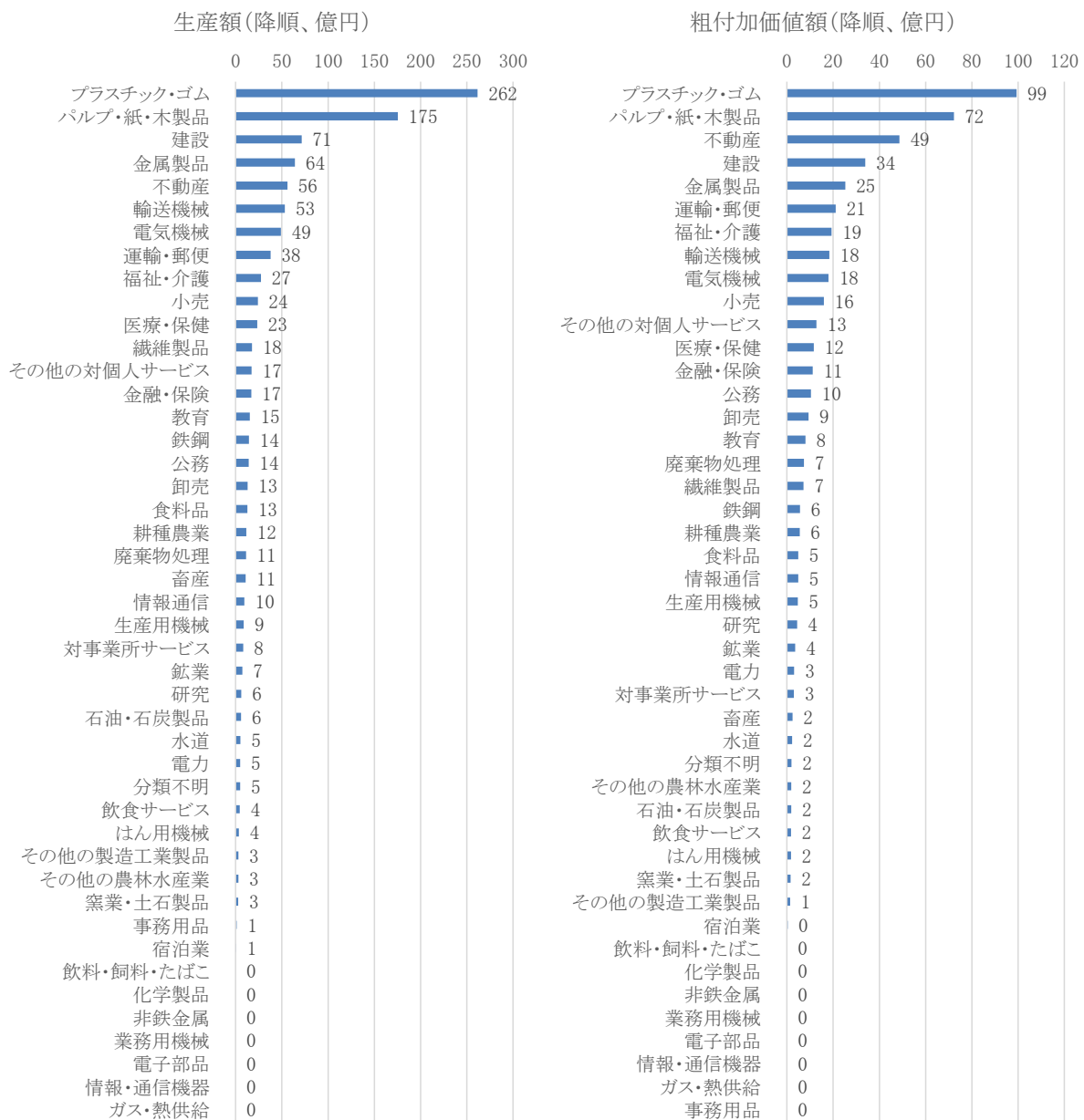
図表2 矢掛町産業連関表の雇用表の概要

従業者 総数	個人業主	家族 従業者	有給役員 ・雇用者	有給 役員	雇用者	常用 雇用者			臨時 雇用者
						正社員 ・正職員	正社員・正 職員以外		
7,299人					4,630人				

資料：矢掛町産業連関表（2019年）

(1) 生産額と粗付加価値額

図表 3 矢掛町産業連関表 (2019 年) の生産額、粗付加価値額

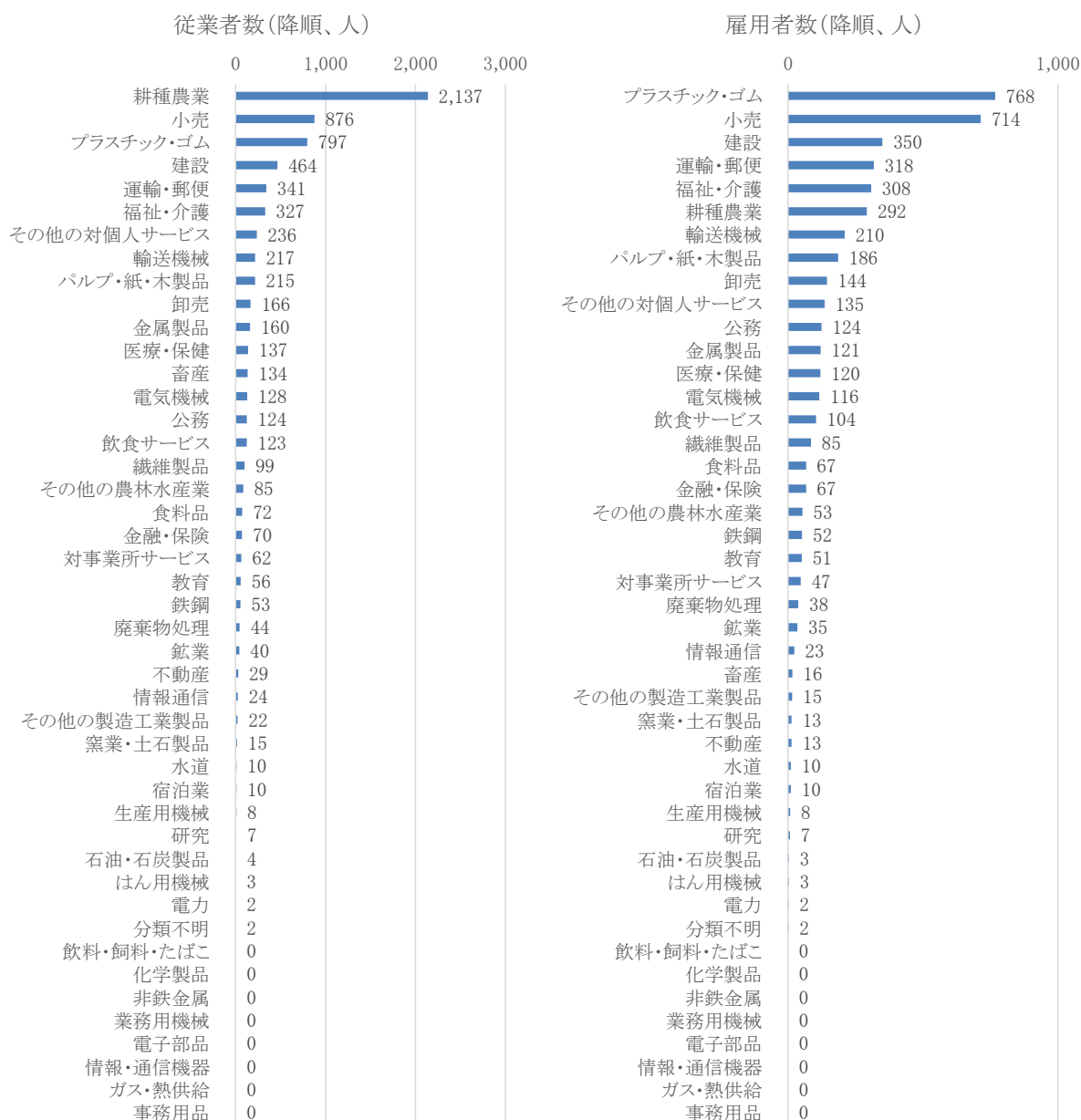


資料：矢掛町産業連関表 (2019 年)、45 部門表

矢掛町産業連関表 (2019 年) の 45 部門表について、生産額と粗付加価値額を降順でみる。生産額は、プラスチック・ゴム、パルプ・紙・木製品、建設、金属製品、不動産、の順に大きい。粗付加価値額は、プラスチック・ゴム、パルプ・紙・木製品、不動産、建設、の順に大きい。

(2) 従業者数と雇用者数

図表 4 矢掛町産業連関表（2019年）の従業者数、雇用者数

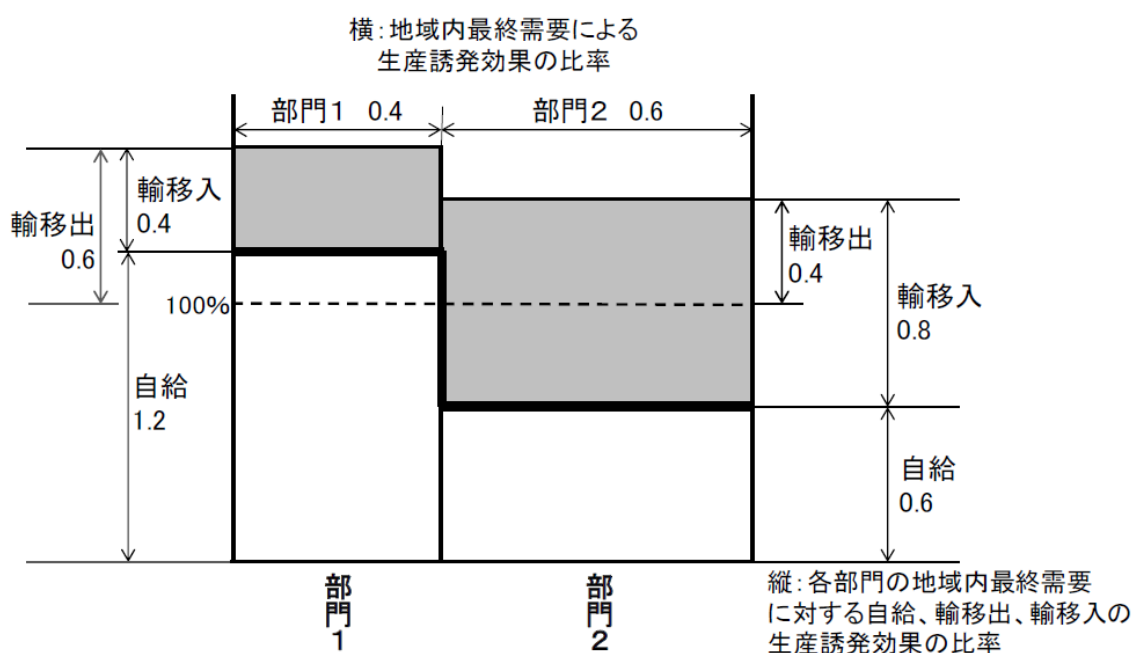


資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表、雇用表

矢掛町産業連関表（2019年）の45部門表について、従業者数と雇用者数を降順でみる。従業者数は、耕種農業、小売、プラスチック・ゴム、建設、運輸・郵便、の順に多い。雇用者数はプラスチック・ゴム、小売、建設、運輸・郵便、福祉・介護の順に多い。

2. スカイラインチャート

図表 5 スカイラインチャートの読み方



引用：宇多賢治郎「スカイランチャーとバランスチャート」、2020年

スカイラインチャートの横軸は、生産額における各部門のシェアを表す。シェアが大きい、すなわち生産額の大きい部門ほど、横軸の幅が大きくなる。

縦軸は、各部門での生産額、移輸出額、移輸入額を、町内需要額を100%とした時の相対的な数値(%)で表している。

図表6の自給率とは町内需要額に対する生産額の割合であり、移入率とは町内需要額に対する移輸入額の割合である。自給率が100%を上回っている場合、余剰は移輸出になる。また、移輸入が増えると町内需要に対する町内生産物が減少し、その分だけ移輸出が増加する。

以上の関係は、産業連関表の産出構造(行方向)から導くことができる。

$$\text{町内最終需要額} - \text{移輸入額} + \text{移輸出額} = \text{生産額}$$

$$\text{町内最終需要額} = \text{生産額} + \text{移輸入額} - \text{移輸出額}$$

両辺を町内最終需要額で割ると、

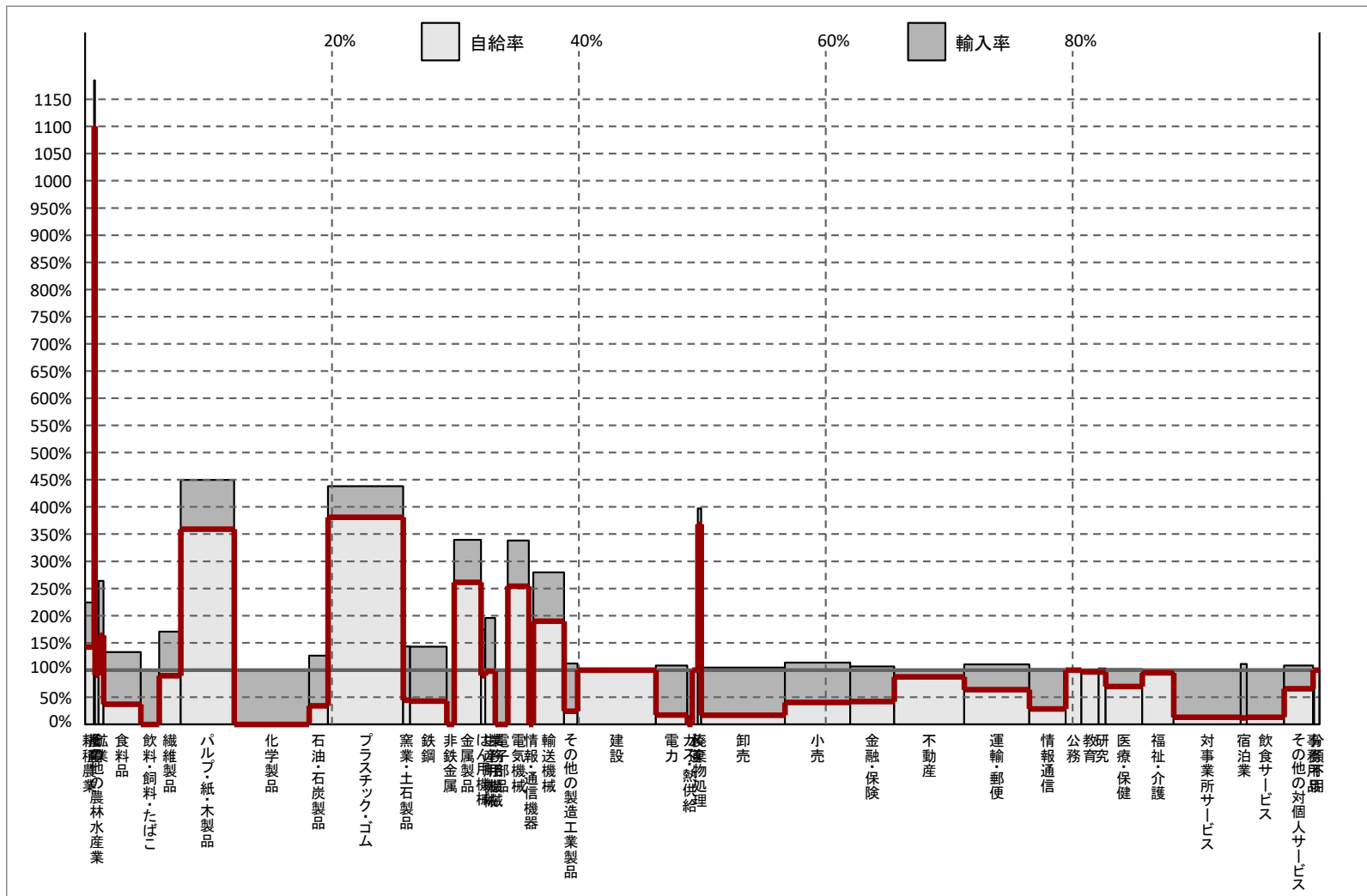
$$100\% = \text{自給率} + \text{移輸入率} - \text{移輸出率}$$

となる。

(参考文献)

宇多賢治郎(2019年)「スカイラインチャートなどのグラフ描画プログラムを組む方法」、『産業連関』、第27号第1巻、環太平洋産業連関分析学会

図表 6 矢掛町産業連関表（2019年）のスカイラインチャート



資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

※作図は宇多賢治郎氏（山梨大学）が作成・公開している「Ray3」を用いて行った。

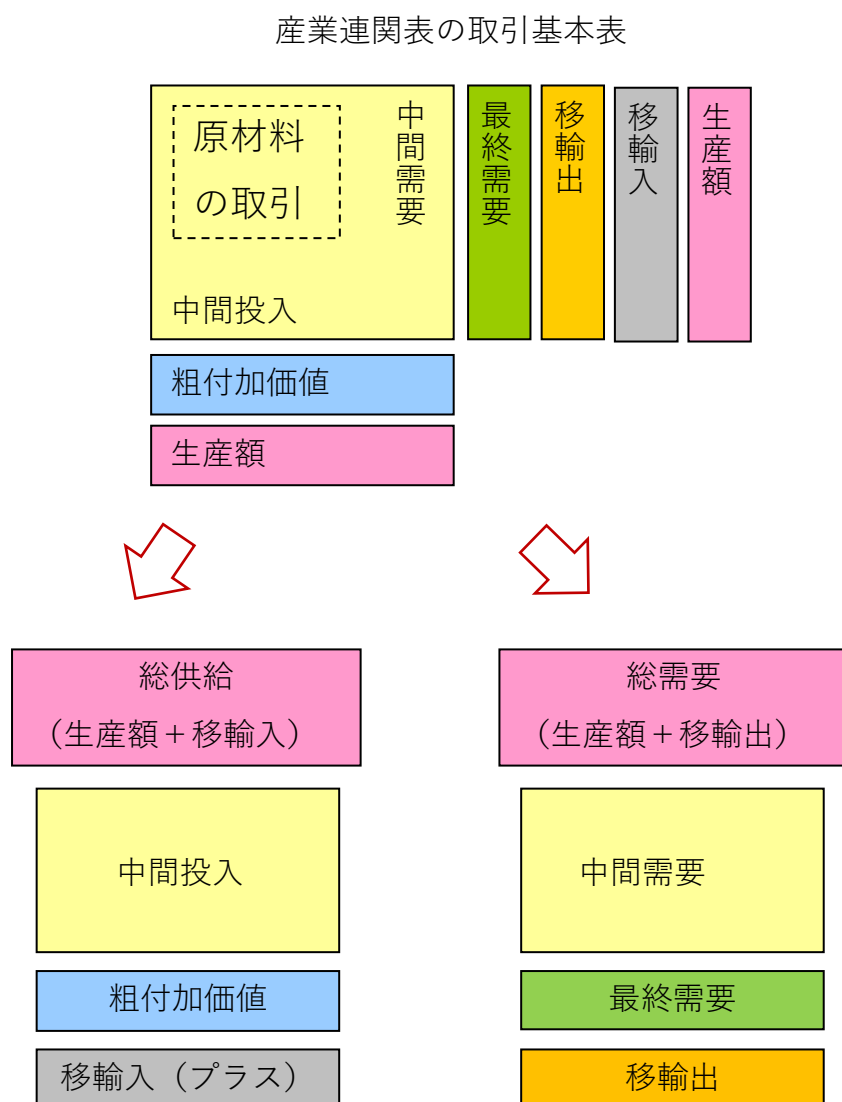
3. 総供給、総需要

矢掛町産業連関表を使って、町内の総供給、総需要をみることができる。総供給とは、矢掛町内の事業者や市民に供給された商品やサービスの総額である。商品などのモノは市外から取り寄せる場合も含まれている。同様にサービスでは、矢掛町内の事業者や市民が、矢掛町外の拠点から受けたサービスが含まれている。

一方、総需要とは矢掛町内の事業者や市民が必要とした商品やサービスの総額である。商品などのモノは市外に出荷する場合も含まれている。同様にサービスでは、矢掛町外の事業者や市民が、矢掛町内の拠点から受けたサービスが含まれている。

産業連関表との数値関係は次のようになる。

図表 7 取引基本表の各項目と総供給、総需要の関係



(1) 内生部門計

図表 8

内生部門計

単位: 百万円

総供給		総需要																																																			
180,937		180,937																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">町内生産額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中間投入</td> <td>57,041</td> </tr> <tr> <td>プラスチック・ゴム</td> <td>6,742</td> </tr> <tr> <td>化学製品</td> <td>6,464</td> </tr> <tr> <td>対事業所サービス</td> <td>5,530</td> </tr> <tr> <td>卸売</td> <td>5,259</td> </tr> <tr> <td>パルプ・紙・木製品</td> <td>4,807</td> </tr> <tr> <td>粗付加価値</td> <td>50,707</td> </tr> <tr> <td>家計外消費支出</td> <td>1,802</td> </tr> <tr> <td>雇用者所得</td> <td>18,943</td> </tr> <tr> <td>営業余剰</td> <td>5,747</td> </tr> <tr> <td>資本減耗引当</td> <td>21,352</td> </tr> </tbody> </table>		町内生産額		中間投入	57,041	プラスチック・ゴム	6,742	化学製品	6,464	対事業所サービス	5,530	卸売	5,259	パルプ・紙・木製品	4,807	粗付加価値	50,707	家計外消費支出	1,802	雇用者所得	18,943	営業余剰	5,747	資本減耗引当	21,352	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">町内需要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中間需要</td> <td>57,041</td> </tr> <tr> <td>プラスチック・ゴム</td> <td>16,236</td> </tr> <tr> <td>パルプ・紙・木製品</td> <td>10,315</td> </tr> <tr> <td>金属製品</td> <td>3,896</td> </tr> <tr> <td>建設</td> <td>3,758</td> </tr> <tr> <td>輸送機械</td> <td>3,491</td> </tr> <tr> <td>町内最終需要</td> <td>55,552</td> </tr> <tr> <td>家計外消費支出(列)</td> <td>1,802</td> </tr> <tr> <td>民間消費支出</td> <td>37,672</td> </tr> <tr> <td>一般政府消費支出</td> <td>5,171</td> </tr> <tr> <td>町内総固定資本形成(公的)</td> <td>4,359</td> </tr> <tr> <td>町内総固定資本形成(民間)</td> <td>6,363</td> </tr> </tbody> </table>		町内需要		中間需要	57,041	プラスチック・ゴム	16,236	パルプ・紙・木製品	10,315	金属製品	3,896	建設	3,758	輸送機械	3,491	町内最終需要	55,552	家計外消費支出(列)	1,802	民間消費支出	37,672	一般政府消費支出	5,171	町内総固定資本形成(公的)	4,359	町内総固定資本形成(民間)	6,363
町内生産額																																																					
中間投入	57,041																																																				
プラスチック・ゴム	6,742																																																				
化学製品	6,464																																																				
対事業所サービス	5,530																																																				
卸売	5,259																																																				
パルプ・紙・木製品	4,807																																																				
粗付加価値	50,707																																																				
家計外消費支出	1,802																																																				
雇用者所得	18,943																																																				
営業余剰	5,747																																																				
資本減耗引当	21,352																																																				
町内需要																																																					
中間需要	57,041																																																				
プラスチック・ゴム	16,236																																																				
パルプ・紙・木製品	10,315																																																				
金属製品	3,896																																																				
建設	3,758																																																				
輸送機械	3,491																																																				
町内最終需要	55,552																																																				
家計外消費支出(列)	1,802																																																				
民間消費支出	37,672																																																				
一般政府消費支出	5,171																																																				
町内総固定資本形成(公的)	4,359																																																				
町内総固定資本形成(民間)	6,363																																																				
移輸入		移輸出																																																			
73,190		68,345																																																			

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

内生部門計の総供給は、1,809億37百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、1,077億48百万円であった。このうち、中間投入は570億41百万円であり、粗付加価値は507億7百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、731億90百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、プラスチック・ゴムの67億42百万円であり、次いで、化学製品の64億64百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が18億2百万円、雇用者所得が189億43百万円、営業余剰が57億47百万円、資本減耗引当が213億52百万円であった。

内生部門計の総需要は、1,809億37百万円であった。町内における需要である町内需要は、1,125億93百万円であった。このうち、中間需要は570億41百万円であり、町内最終需要は555億52百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、683億45百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、プラスチック・ゴムの162億36百万円であり、次いで、パルプ・紙・木製品の103億15百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が18億2百万円、民間消費支出が376億72百万円、一般政府消費支出が51億71百万円、町内総固定資本形成(公的)が43億59百万円、町内総固定資本形成(民間)が63億63百万円であった。

(2) 耕種農業

図表 9

耕種農業

単位: 百万円

総供給		1,821
町内生産額		1,156
中間投入		597
化学製品		140
その他の農林水産業		102
運輸・郵便		76
小売		54
卸売		43
粗付加価値		559
家計外消費支出		1
雇用者所得		69
営業余剰		296
資本減耗引当		242
移輸入		665

=

総需要		1,821
町内需要		812
中間需要		472
畜産		184
プラスチック・ゴム		166
食料品		27
耕種農業		25
繊維製品		17
町内最終需要		340
家計外消費支出(列)		6
民間消費支出		338
一般政府消費支出		0
町内総固定資本形成(公的)		0
町内総固定資本形成(民間)		0
移輸出		1,009

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

耕種農業の総供給は18億21百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、11億56百万円であった。このうち、中間投入は5億97百万円であり、粗付加価値は5億59百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、6億65百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、化学製品の1億40百万円であり、次いで、その他の農林水産業の1億2百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が1百万円、雇用者所得が69百万円、営業余剰が2億96百万円、資本減耗引当が2億42百万円であった。

耕種農業の総需要は18億21百万円であった。町内における需要である町内需要は、8億12百万円であった。このうち、中間需要は4億72百万円であり、町内最終需要は3億40百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、10億9百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、畜産の1億84百万円であり、次いで、プラスチック・ゴムの1億66百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が6百万円、民間消費支出が3億38百万円であった。

(3) 畜産

図表 10

畜産

単位: 百万円

総供給	1,158	=	総需要	1,158
市内生産額	1,076		市内需要	98
中間投入	833		中間需要	27
飲料・飼料・たばこ	348		耕種農業	7
耕種農業	184		畜産	7
運輸・郵便	77		食料品	5
その他の農林水産業	40		飲食サービス	3
卸売	30		繊維製品	2
粗付加価値	242		市内最終需要	71
家計外消費支出	1		家計外消費支出(列)	0
雇用者所得	35	民間消費支出	44	
営業余剰	61	一般政府消費支出	0	
資本減耗引当	140	市内総固定資本形成(公的)	0	
移輸入	83	市内総固定資本形成(民間)	28	
		移輸出	1,060	

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

畜産の総供給は11億58百万円であった。市内からの供給である市内生産額は、10億76百万円であった。このうち、中間投入は8億33百万円であり、粗付加価値は2億42百万円であった。一方、市外からの供給である移輸入は、83百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、飲料・飼料・たばこの3億48百万円であり、次いで、耕種農業の1億84百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が1百万円、雇用者所得が35百万円、営業余剰が61百万円、資本減耗引当が1億40百万円であった。

畜産の総需要は11億58百万円であった。市内における需要である市内需要は、98百万円であった。このうち、中間需要は27百万円であり、市内最終需要は71百万円であった。一方、市外における需要である移輸出は、10億60百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、耕種農業の7百万円であり、次いで、畜産の7百万円であった。

市内最終需要は、民間消費支出が44百万円、市内総固定資本形成（民間）が28百万円であった。

(4) 食料品

図表 11

食料品

単位: 百万円

総供給	4,528	=	総需要	4,528
市内生産額	1,269		市内需要	3,400
中間投入	775		中間需要	560
食料品	379		食料品	379
卸売	104		飲食サービス	76
対事業所サービス	57		教育	34
運輸・郵便	45		福祉・介護	29
耕種農業	27		畜産	28
粗付加価値	493		市内最終需要	2,840
家計外消費支出	13		家計外消費支出(列)	50
雇用者所得	266	民間消費支出	2,789	
営業余剰	116	一般政府消費支出	0	
資本減耗引当	69	市内総固定資本形成(公的)	0	
市内総固定資本形成(民間)	0			
移輸入	3,259	移輸出	1,128	

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

食料品の総供給は45億28百万円であった。市内からの供給である市内生産額は、12億69百万円であった。このうち、中間投入は7億75百万円であり、粗付加価値は4億93百万円であった。一方、市外からの供給である移輸入は、32億59百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、食料品の3億79百万円であり、次いで、卸売の1億4百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が13百万円、雇用者所得が2億66百万円、営業余剰が1億16百万円、資本減耗引当が69百万円であった。

食料品の総需要は45億28百万円であった。市内における需要である市内需要は、34億円であった。このうち、中間需要は5億60百万円であり、市内最終需要は28億40百万円であった。一方、市外における需要である移輸出は、11億28百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、食料品の3億79百万円であり、次いで、飲食サービスの76百万円であった。

市内最終需要は、家計外消費支出(列)が50百万円、民間消費支出が27億89百万円であった。

(5) パルプ・紙・木製品

図表 12

パルプ・紙・木製品

単位: 百万円

総供給		21,950
市内生産額		17,537
中間投入		10,315
パルプ・紙・木製品		3,963
卸売		1,722
プラスチック・ゴム		1,334
運輸・郵便		652
化学製品		638
粗付加価値		7,222
家計外消費支出		395
雇用者所得		992
営業余剰		475
資本減耗引当		4,903
移輸入		4,413

=

総需要		21,950
市内需要		4,881
中間需要		4,807
パルプ・紙・木製品		3,963
建設		276
プラスチック・ゴム		224
事務用品		48
福祉・介護		41
市内最終需要		74
家計外消費支出(列)		9
民間消費支出		65
一般政府消費支出		0
市内総固定資本形成(公的)		0
市内総固定資本形成(民間)		0
移輸出		17,070

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

パルプ・紙・木製品の総供給は219億50百万円であった。市内からの供給である市内生産額は、175億37百万円であった。このうち、中間投入は103億15百万円であり、粗付加価値は72億22百万円であった。一方、市外からの供給である移輸入は、44億13百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、パルプ・紙・木製品の39億63百万円であり、次いで、卸売の17億22百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が3億95百万円、雇用者所得が9億92百万円、営業余剰が4億75百万円、資本減耗引当が49億3百万円であった。

パルプ・紙・木製品の総需要は219億50百万円であった。市内における需要である市内需要は、48億81百万円であった。このうち、中間需要は48億7百万円であり、市内最終需要は74百万円であった。一方、市外における需要である移輸出は、170億70百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、パルプ・紙・木製品の39億63百万円であり、次いで、建設の2億76百万円であった。

市内最終需要は、家計外消費支出(列)が9百万円、民間消費支出が65百万円であった。

(6) プラスチック・ゴム

図表 13

プラスチック・ゴム

単位: 百万円

総供給		30,078
町内生産額		26,173
中間投入		16,236
プラスチック・ゴム		4,763
化学製品		4,384
卸売		1,481
対事業所サービス		1,282
金属製品		735
粗付加価値		9,936
家計外消費支出		409
雇用者所得		3,737
営業余剰		324
資本減耗引当		4,662
移輸入		3,905

=

総需要		30,078
町内需要		6,867
中間需要		6,742
プラスチック・ゴム		4,763
パルプ・紙・木製品		1,334
輸送機械		208
電気機械		127
建設		95
町内最終需要		125
家計外消費支出(列)		3
民間消費支出		121
一般政府消費支出		1
町内総固定資本形成(公的)		0
町内総固定資本形成(民間)		0
移輸出		23,211

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

プラスチック・ゴムの総供給は300億78百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、261億73百万円であった。このうち、中間投入は162億36百万円であり、粗付加価値は99億36百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、39億5百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、プラスチック・ゴムの47億63百万円であり、次いで、化学製品の43億84百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が4億9百万円、雇用者所得が37億37百万円、営業余剰が3億24百万円、資本減耗引当が46億62百万円であった。

プラスチック・ゴムの総需要は300億78百万円であった。町内における需要である町内需要は、68億67百万円であった。このうち、中間需要は67億42百万円であり、町内最終需要は1億25百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、232億11百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、プラスチック・ゴムの47億63百万円であり、次いで、パルプ・紙・木製品の13億34百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が3百万円、民間消費支出が1億21百万円、一般政府消費支出が1百万円であった。

(7) 金属製品

図表 14

金属製品

単位: 百万円

総供給		8,336
町内生産額		6,418
中間投入		3,896
鉄鋼		1,993
金属製品		488
卸売		313
運輸・郵便		258
対事業所サービス		183
粗付加価値		2,522
家計外消費支出		177
雇用者所得		614
営業余剰		65
資本減耗引当		1,488
移輸入		1,918

=

総需要		8,336
町内需要		2,457
中間需要		2,163
プラスチック・ゴム		735
建設		580
金属製品		488
電気機械		129
輸送機械		47
町内最終需要		294
家計外消費支出(列)		4
民間消費支出		38
一般政府消費支出		1
町内総固定資本形成(公的)		5
町内総固定資本形成(民間)		181
移輸出		5,879

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

金属製品の総供給は83億36百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、64億18百万円であった。このうち、中間投入は38億96百万円であり、粗付加価値は25億22百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、19億18百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、鉄鋼の19億93百万円であり、次いで、金属製品の4億88百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が1億77百万円、雇用者所得が6億14百万円、営業余剰が65百万円、資本減耗引当が14億88百万円であった。

金属製品の総需要は83億36百万円であった。町内における需要である町内需要は、24億57百万円であった。このうち、中間需要は21億63百万円であり、町内最終需要は2億94百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、58億79百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、プラスチック・ゴムの7億35百万円であり、次いで、建設の5億80百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が4百万円、民間消費支出が38百万円、一般政府消費支出が1百万円、町内総固定資本形成(公的)が5百万円、町内総固定資本形成(民間)が1億81百万円であった。

(8) 建設

図表 15

建設

単位: 百万円

総供給		7,144
町内生産額		7,144
中間投入		3,758
対事業所サービス		748
金属製品		580
窯業・土石製品		393
卸売		339
運輸・郵便		330
粗付加価値		3,386
家計外消費支出		141
雇用者所得		1,901
営業余剰		126
資本減耗引当		1,000
移輸入		0

=

総需要		7,144
町内需要		7,144
中間需要		345
プラスチック・ゴム		72
不動産		56
パルプ・紙・木製品		52
運輸・郵便		18
公務		17
町内最終需要		6,798
家計外消費支出(列)		0
民間消費支出		0
一般政府消費支出		0
町内総固定資本形成(公的)		4,213
町内総固定資本形成(民間)		2,585
移輸出		0

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

建設の総供給は71億44百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、71億44百万円であった。このうち、中間投入は37億58百万円であり、粗付加価値は33億86百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、対事業所サービスの7億48百万円であり、次いで、金属製品の5億80百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が1億41百万円、雇用者所得が19億1百万円、営業余剰が1億26百万円、資本減耗引当が9億円であった。

建設の総需要は71億44百万円であった。町内における需要である町内需要は、71億44百万円であった。このうち、中間需要は3億45百万円であり、町内最終需要は67億98百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、プラスチック・ゴムの72百万円であり、次いで、不動産の56百万円であった。

町内最終需要は、町内総固定資本形成（公的）が42億13百万円、町内総固定資本形成（民間）が25億85百万円であった。

(9) 卸売

図表 16

卸売

単位: 百万円

総供給		7,990
町内生産額		1,286
中間投入		352
対事業所サービス		85
運輸・郵便		85
不動産		45
情報通信		41
金融・保険		25
粗付加価値		934
家計外消費支出		38
雇用者所得		834
営業余剰		284
資本減耗引当		-276
移輸入		6,705

=

総需要		7,990
町内需要		7,636
中間需要		5,259
パルプ・紙・木製品		1,722
プラスチック・ゴム		1,481
建設		339
金属製品		313
電気機械		221
町内最終需要		2,377
家計外消費支出(列)		48
民間消費支出		1,700
一般政府消費支出		0
町内総固定資本形成(公的)		39
町内総固定資本形成(民間)		570
移輸出		354

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

卸売の総供給は79億90百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、12億86百万円であった。このうち、中間投入は3億52百万円であり、粗付加価値は9億34百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、67億5百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、対事業所サービスの85百万円であり、次いで、運輸・郵便の85百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が38百万円、雇用者所得が8億34百万円、営業余剰が2億84百万円、資本減耗引当が-2億24百万円であった。

卸売の総需要は79億90百万円であった。町内における需要である町内需要は、76億36百万円であった。このうち、中間需要は52億59百万円であり、町内最終需要は23億77百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、3億54百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、パルプ・紙・木製品の17億22百万円であり、次いで、プラスチック・ゴムの14億81百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が48百万円、民間消費支出が17億円、町内総固定資本形成(公的)が39百万円、町内総固定資本形成(民間)が5億70百万円であった。

(10) 小売

図表 17

小売

単位: 百万円

総供給	6,754	=	総需要	6,754
町内生産額	2,402		町内需要	5,950
中間投入	800		中間需要	508
対事業所サービス	254		プラスチック・ゴム	75
情報通信	104		運輸・郵便	67
運輸・郵便	98		耕種農業	54
電力	82		福祉・介護	31
不動産	48		畜産	30
粗付加価値	1,602		町内最終需要	5,442
家計外消費支出	40		家計外消費支出(列)	151
雇用者所得	1,169	民間消費支出	4,791	
営業余剰	194	一般政府消費支出	1	
資本減耗引当	103	町内総固定資本形成(公的)	23	
移輸入	4,352	町内総固定資本形成(民間)	476	
		移輸出	804	

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

小売の総供給は67億54百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、24億2百万円であった。このうち、中間投入は8億円であり、粗付加価値は16億2百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、43億52百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、対事業所サービスの2億54百万円であり、次いで、情報通信の1億4百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が40百万円、雇用者所得が11億69百万円、営業余剰が1億94百万円、資本減耗引当が1億3百万円であった。

小売の総需要は67億54百万円であった。町内における需要である町内需要は、59億50百万円であった。このうち、中間需要は5億8百万円であり、町内最終需要は54億42百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、8億4百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、プラスチック・ゴムの75百万円であり、次いで、運輸・郵便の67百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が1億51百万円、民間消費支出が47億91百万円、一般政府消費支出が1百万円、町内総固定資本形成(公的)が23百万円、町内総固定資本形成(民間)が4億76百万円であった。

(11) 教育

図表 18

教育

単位: 百万円

総供給	1,593	=	総需要	1,593
町内生産額	1,525		町内需要	1,578
中間投入	723		中間需要	35
対事業所サービス	247		金属製品	8
電力	99		電気機械	6
運輸・郵便	63		情報通信	4
情報通信	48		パルプ・紙・木製品	4
その他の製造工業製品	38		プラスチック・ゴム	3
粗付加価値	801		町内最終需要	1,544
家計外消費支出	20		家計外消費支出(列)	0
雇用者所得	353	民間消費支出	1,080	
営業余剰	0	一般政府消費支出	464	
資本減耗引当	415	町内総固定資本形成(公的)	0	
移輸入	68	町内総固定資本形成(民間)	0	
		移輸出	15	

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

教育の総供給は15億93百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、15億25百万円であった。このうち、中間投入は7億23百万円であり、粗付加価値は8億1百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、68百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、対事業所サービスの2億47百万円であり、次いで、電力の99百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が20百万円、雇用者所得が3億53百万円、資本減耗引当が4億15百万円であった。

教育の総需要は15億93百万円であった。町内における需要である町内需要は、15億78百万円であった。このうち、中間需要は35百万円であり、町内最終需要は15億44百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、15百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、金属製品の8百万円であり、次いで、電気機械の6百万円であった。

町内最終需要は、民間消費支出が10億80百万円、一般政府消費支出が4億64百万円であった。

(12) 医療・保健

図表 19

医療・保健

単位:百万円

総供給		3,398
町内生産額		2,336
中間投入		1,175
化学製品		598
卸売		178
対事業所サービス		82
運輸・郵便		44
不動産		44
粗付加価値		1,161
家計外消費支出		19
雇用者所得		669
営業余剰		106
資本減耗引当		365
移輸入		1,062

=

総需要		3,398
町内需要		3,344
中間需要		57
医療・保健		43
福祉・介護		7
その他の農林水産業		2
運輸・郵便		2
分類不明		1
町内最終需要		3,287
家計外消費支出(列)		75
民間消費支出		1,269
一般政府消費支出		1,944
町内総固定資本形成(公的)		0
町内総固定資本形成(民間)		0
移輸出		54

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

医療・保健の総供給は33億98百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、23億36百万円であった。このうち、中間投入は11億75百万円であり、粗付加価値は11億61百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、10億62百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、化学製品の5億98百万円であり、次いで、卸売の1億78百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が19百万円、雇用者所得が6億69百万円、営業余剰が1億6百万円、資本減耗引当が3億65百万円であった。

医療・保健の総需要は33億98百万円であった。町内における需要である町内需要は、33億44百万円であった。このうち、中間需要は57百万円であり、町内最終需要は32億87百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、54百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、医療・保健の43百万円であり、次いで、福祉・介護の7百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が75百万円、民間消費支出が12億69百万円、一般政府消費支出が19億44百万円であった。

(13) 宿泊業

図表 20

宿泊業

単位: 百万円

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">総供給</td> <td style="text-align: right;">622</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">町内生産額</td> <td style="text-align: right;">68</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;"> 中間投入</td> <td style="text-align: right;">35</td> </tr> <tr> <td> 運輸・郵便</td> <td style="text-align: right;">7</td> </tr> <tr> <td> 食料品</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td> 廃棄物処理</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td> 電力</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td> 卸売</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;"> 粗付加価値</td> <td style="text-align: right;">33</td> </tr> <tr> <td> 家計外消費支出</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td> 雇用者所得</td> <td style="text-align: right;">23</td> </tr> <tr> <td> 営業余剰</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> <tr> <td> 資本減耗引当</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;">移輸入</td> <td style="text-align: right;">554</td> </tr> </table>	総供給	622	町内生産額	68	中間投入	35	運輸・郵便	7	食料品	3	廃棄物処理	3	電力	3	卸売	2	粗付加価値	33	家計外消費支出	2	雇用者所得	23	営業余剰	4	資本減耗引当	2	移輸入	554	=	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #76a53b;">総需要</td> <td style="text-align: right;">622</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #76a53b;">町内需要</td> <td style="text-align: right;">560</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #76a53b;"> 中間需要</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td> 耕種農業</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td> 畜産</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td> その他の農林水産業</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td> 鉱業</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td> 食料品</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #76a53b;"> 町内最終需要</td> <td style="text-align: right;">560</td> </tr> <tr> <td> 家計外消費支出(列)</td> <td style="text-align: right;">219</td> </tr> <tr> <td> 民間消費支出</td> <td style="text-align: right;">340</td> </tr> <tr> <td> 一般政府消費支出</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td> 町内総固定資本形成(公的)</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td> 町内総固定資本形成(民間)</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #76a53b;">移輸出</td> <td style="text-align: right;">63</td> </tr> </table>	総需要	622	町内需要	560	中間需要	0	耕種農業	0	畜産	0	その他の農林水産業	0	鉱業	0	食料品	0	町内最終需要	560	家計外消費支出(列)	219	民間消費支出	340	一般政府消費支出	0	町内総固定資本形成(公的)	0	町内総固定資本形成(民間)	0	移輸出	63
総供給	622																																																											
町内生産額	68																																																											
中間投入	35																																																											
運輸・郵便	7																																																											
食料品	3																																																											
廃棄物処理	3																																																											
電力	3																																																											
卸売	2																																																											
粗付加価値	33																																																											
家計外消費支出	2																																																											
雇用者所得	23																																																											
営業余剰	4																																																											
資本減耗引当	2																																																											
移輸入	554																																																											
総需要	622																																																											
町内需要	560																																																											
中間需要	0																																																											
耕種農業	0																																																											
畜産	0																																																											
その他の農林水産業	0																																																											
鉱業	0																																																											
食料品	0																																																											
町内最終需要	560																																																											
家計外消費支出(列)	219																																																											
民間消費支出	340																																																											
一般政府消費支出	0																																																											
町内総固定資本形成(公的)	0																																																											
町内総固定資本形成(民間)	0																																																											
移輸出	63																																																											

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

宿泊業の総供給は6億22百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、68百万円であった。このうち、中間投入は35百万円であり、粗付加価値は33百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、5億54百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、運輸・郵便の7百万円であり、次いで、食料品の3百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が2百万円、雇用者所得が23百万円、営業余剰が4百万円、資本減耗引当が2百万円であった。

宿泊業の総需要は6億22百万円であった。町内における需要である町内需要は、5億60百万円であった。このうち、町内最終需要は5億60百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、63百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が2億19百万円、民間消費支出が3億40百万円であった。

(14) 飲食サービス

図表 21

飲食サービス

単位: 百万円

総供給	3,420	=	総需要	3,420
町内生産額	448		町内需要	3,381
中間投入	268		中間需要	26
食料品	76		教育	14
卸売	35		福祉・介護	5
飲料・飼料・たばこ	35		飲食サービス	3
小売	20		医療・保健	2
対事業所サービス	14		宿泊業	1
粗付加価値	180		町内最終需要	3,355
家計外消費支出	7		家計外消費支出(列)	897
雇用者所得	126	民間消費支出	2,459	
営業余剰	11	一般政府消費支出	0	
資本減耗引当	21	町内総固定資本形成(公的)	0	
移輸入	2,972	移輸出	39	

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

飲食サービスの総供給は34億20百万円であった。町内からの供給である町内生産額は、4億48百万円であった。このうち、中間投入は2億68百万円であり、粗付加価値は1億80百万円であった。一方、町外からの供給である移輸入は、29億72百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、食料品の76百万円であり、次いで、卸売の35百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が7百万円、雇用者所得が1億26百万円、営業余剰が11百万円、資本減耗引当が21百万円であった。

飲食サービスの総需要は34億20百万円であった。町内における需要である町内需要は、33億81百万円であった。このうち、中間需要は26百万円であり、町内最終需要は33億55百万円であった。一方、町外における需要である移輸出は、39百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、教育の14百万円であり、次いで、福祉・介護の5百万円であった。

町内最終需要は、家計外消費支出(列)が8億97百万円、民間消費支出が24億59百万円であった。

(15) その他の対個人サービス

図表 22

その他の対個人サービス

単位: 百万円

総供給	2,861	=	総需要	2,861
市内生産額	1,734		市内需要	2,645
中間投入	454	中間需要	97	
対事業所サービス	71	福祉・介護	30	
運輸・郵便	53	その他の対個人サービス	21	
電力	40	医療・保健	18	
情報通信	32	情報通信	5	
不動産	31	プラスチック・ゴム	3	
粗付加価値	1,280	市内最終需要	2,548	
家計外消費支出	56	家計外消費支出(列)	105	
雇用者所得	376	民間消費支出	2,443	
営業余剰	294	一般政府消費支出	0	
資本減耗引当	445	市内総固定資本形成(公的)	0	
		市内総固定資本形成(民間)	0	
移輸入	1,127	移輸出	216	

資料：矢掛町産業連関表（2019年）、45部門表

その他の対個人サービスの総供給は28億61百万円であった。市内からの供給である市内生産額は、17億34百万円であった。このうち、中間投入は4億54百万円であり、粗付加価値は12億80百万円であった。一方、市外からの供給である移輸入は、11億27百万円であった。

中間投入が最も多い部門は、対事業所サービスの71百万円であり、次いで、運輸・郵便の53百万円であった。

粗付加価値は、家計外消費支出が56百万円、雇用者所得が3億76百万円、営業余剰が2億94百万円、資本減耗引当が4億45百万円であった。

その他の対個人サービスの総需要は28億61百万円であった。市内における需要である市内需要は、26億45百万円であった。このうち、中間需要は97百万円であり、市内最終需要は25億48百万円であった。一方、市外における需要である移輸出は、2億16百万円であった。

中間需要が最も多い部門は、福祉・介護の30百万円であり、次いで、その他の対個人サービスの21百万円であった。

市内最終需要は、家計外消費支出(列)が1億5百万円、民間消費支出が24億43百万円であった。

4. 影響力係数と感応度係数

矢掛町産業連関表（2019年）、108部門表を用いて取引構造の分析を行う。ここでは、影響力係数と感応度係数という2つの係数を部門ごとに求め、散布図にして分析を行う。また、岡山県産業連関表（2015年）、108部門換算表から両係数を求め、岡山県の平均値との比較を行った。

なお、影響力係数とは、取引関係を通じて町内の他部門に与える影響の相対的な大きさを示す指標である。取引関係では、当該部門が発注側、他部門が受注側に相当する。

また、感応度係数とは、取引関係を通じて町内の他部門から受ける影響の相対的な大きさを示す指標である。取引関係では、当該部門が受注側、他部門が発注側に相当する。

取引関係を通じた影響の範囲は地域内を想定する。通常、経済規模が大きい地域ほど、産業が集積し部門も多様になるため、影響力係数、感応度係数とも数値が高くなる傾向にある。こうした実態に近い状況を想定するモデルが開放型である。

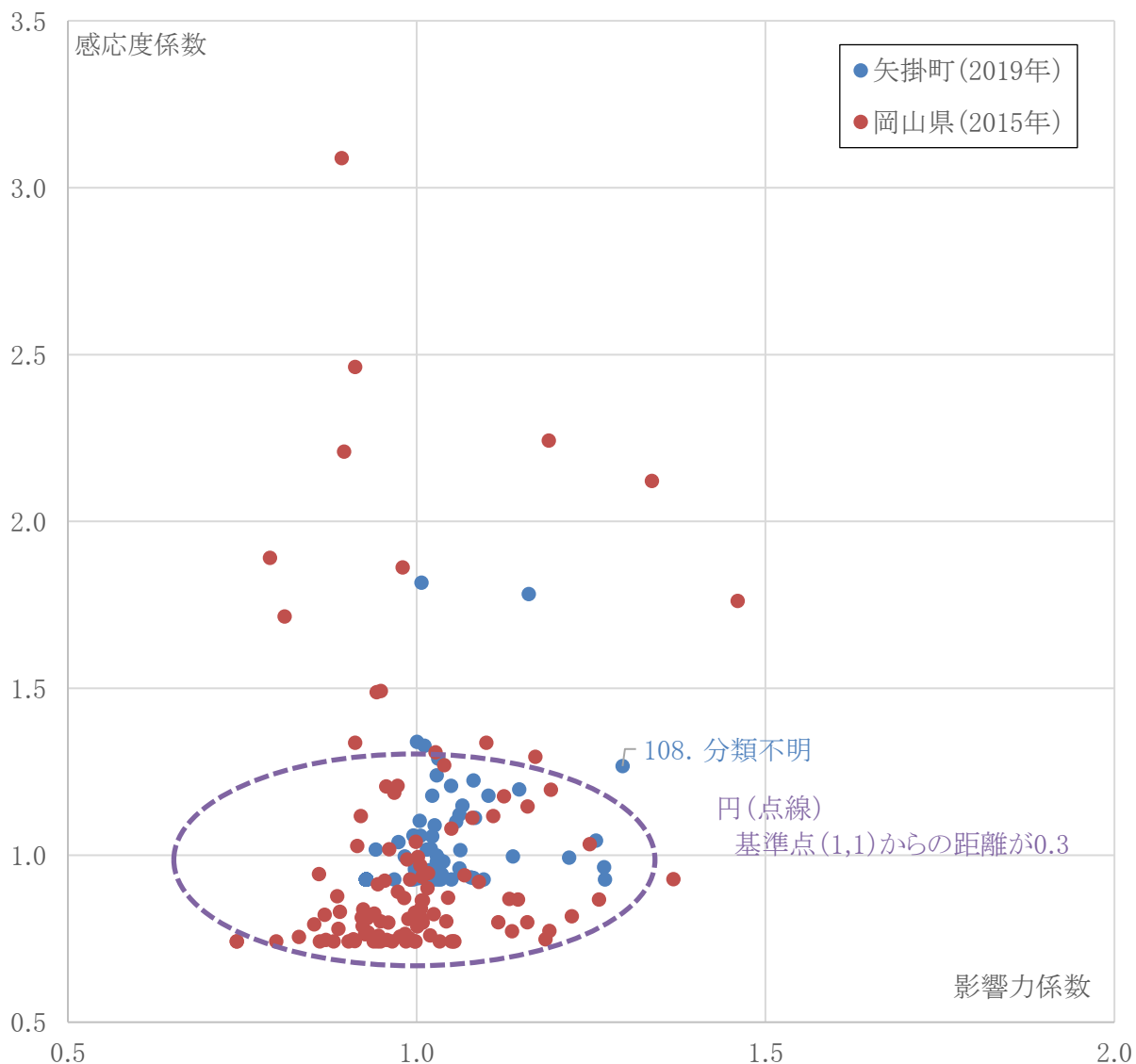
一方、全ての原材料やサービスなどを地域内から調達する場合を想定するモデルが閉鎖型である。実態からは乖離するが、自給率が最大になる場合の地域構造を反映する。なお、地域内に立地がない産業部門では波及効果は生じないと想定される。このため、産業の多様性による影響はより明確になる。

本稿では、これら2つのモデルそれぞれについて、影響力と感応度の散布を作成した。

(1) 開放型

図表 23 開放型

影響力係数・感応度係数
(開放型、108部門)



資料：矢掛町産業連関表（2019年）、108部門表 / 岡山県産業連関表（2015年）、108部門変換表

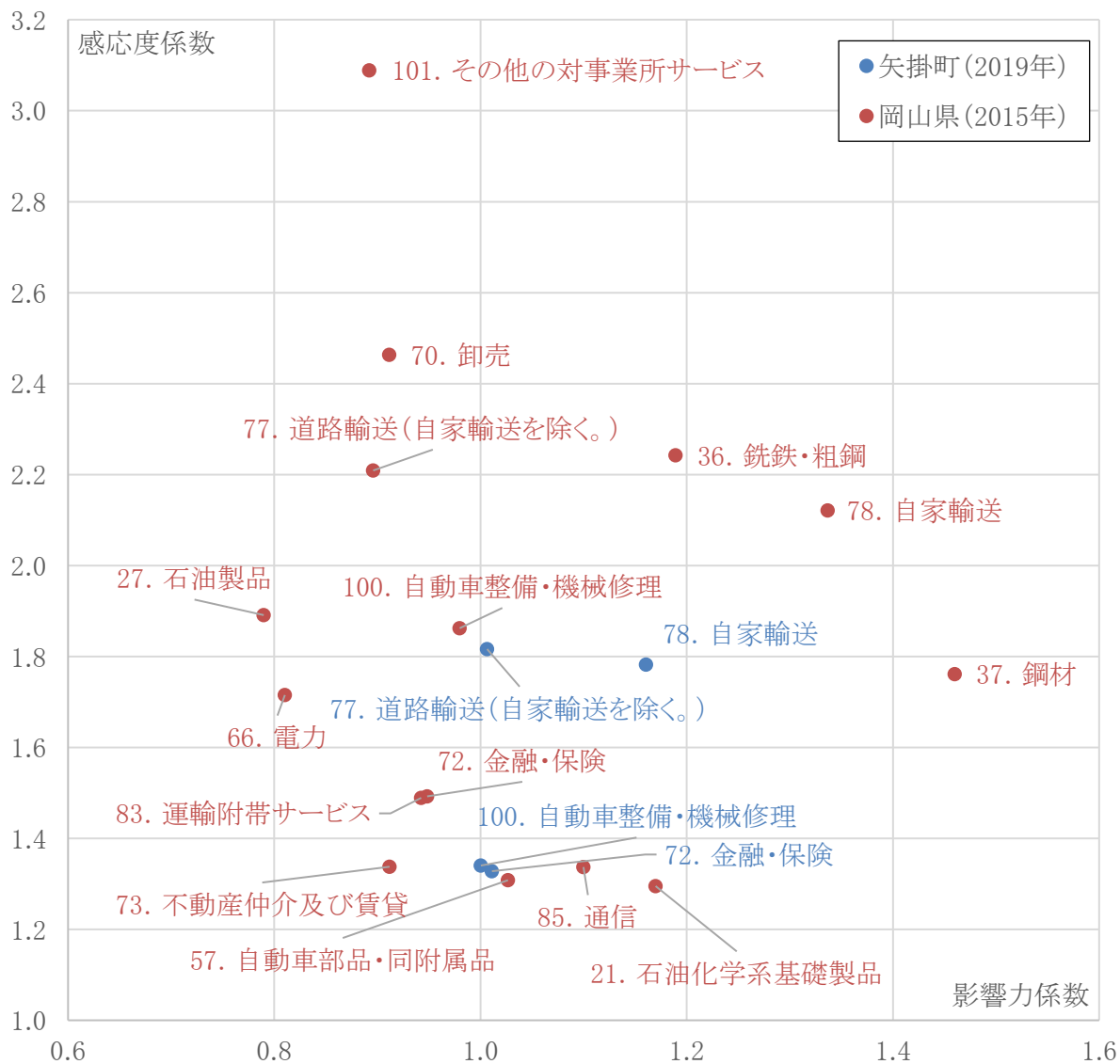
点線の円は、基準値からの距離が一定の範囲で線引きをしており、この円の外側にある産業において、影響力係数または感応度係数が顕著である。

なお、矢掛町で最も影響力係数の高い部門は銑鉄・粗鋼であるが、これは主に町内事業者から鉄くずとして算出されているため、分析対象からは除外する。

(2) 開放型で特徴的な部門

図表 24 開放型

影響力係数・感応度係数(開放型、108部門)
(基準値(1,1)からの距離が0.3以上の部門)



資料：矢掛町産業連関表（2019年）、108部門表 / 岡山県産業連関表（2015年）、108部門変換表

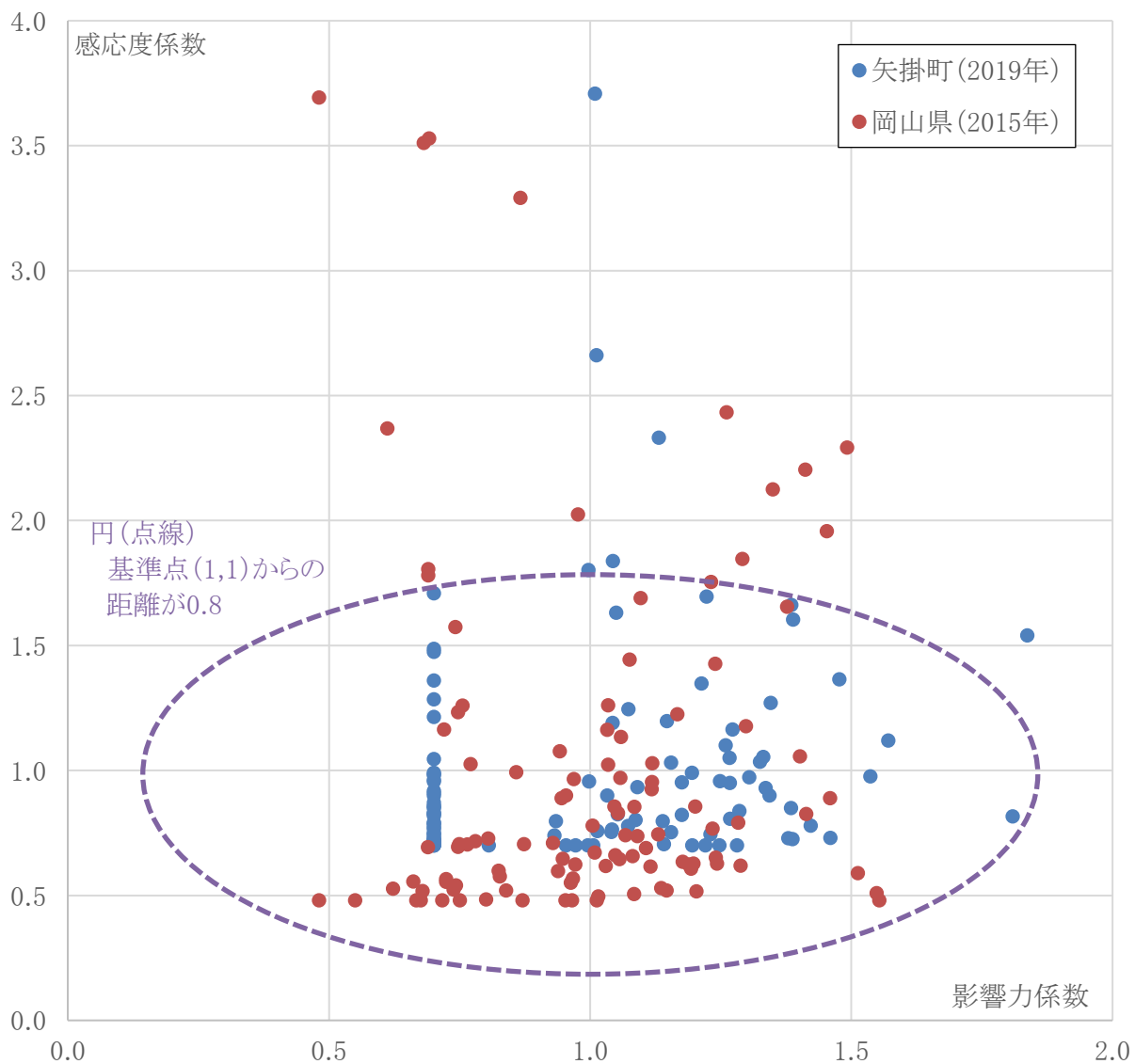
矢掛町で影響力係数が高いのは自家輸送である。一方、感応度係数が高いのは、道路輸送（自家輸送を除く）、自家輸送、自動車整備・機会修理、金融・保険である。

岡山県で影響力係数が高いのは、鋼材、自家輸送、銑鉄・粗鋼などである。また、感応度係数が高いのは、その他の事業所サービス、卸売、銑鉄・粗鋼、道路輸送（自家輸送を除く）などである。

(3) 閉鎖型

図表 25 閉鎖型

影響力係数・感応度係数
(閉鎖型108部門)



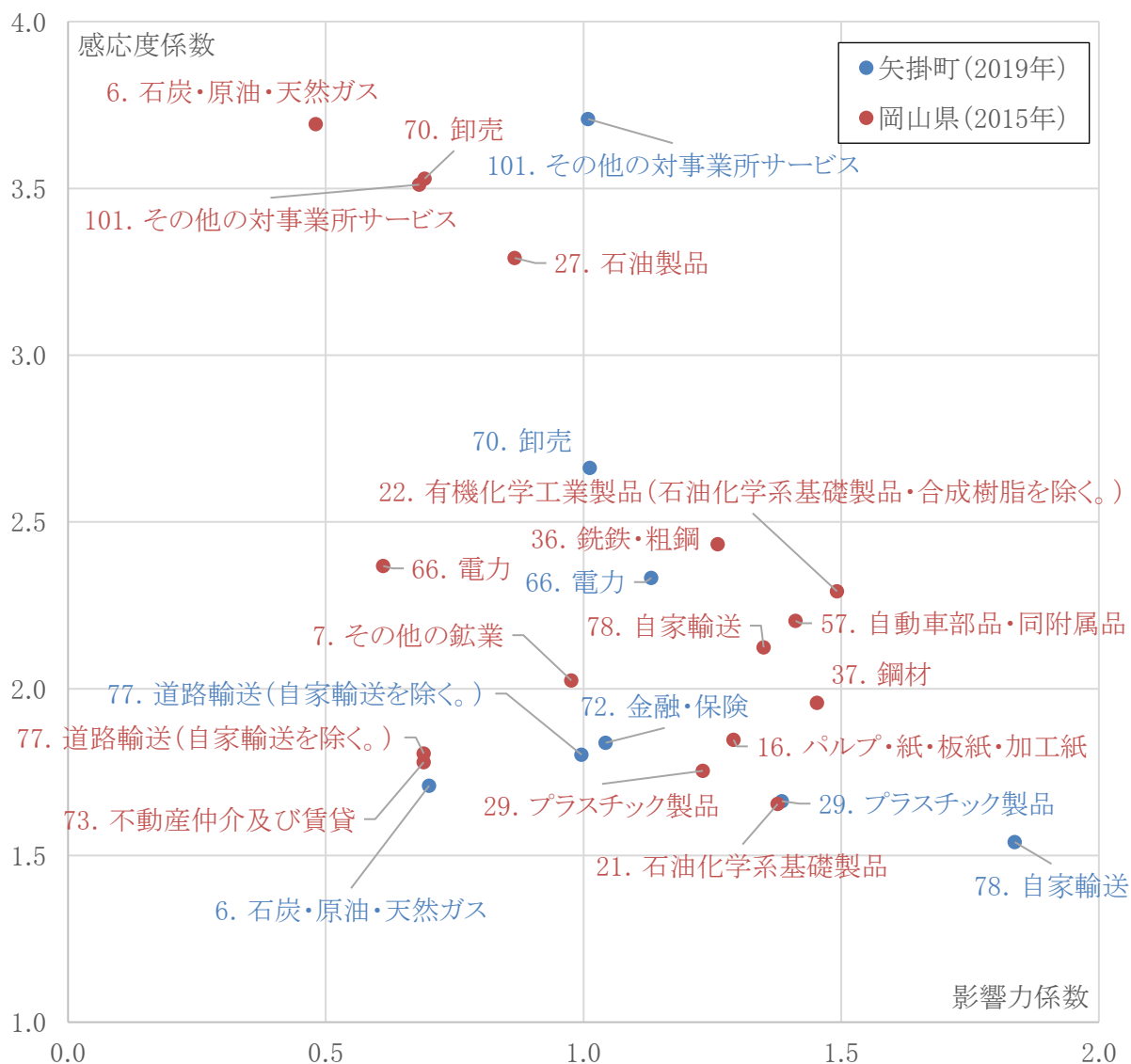
資料：矢掛町産業連関表（2019年）、108部門表 / 岡山県産業連関表（2015年）、108部門変換表

点線の円は、基準値からの距離が一定の範囲で線引きをしており、この円の外側にある産業において、影響力係数または感応度係数が顕著である。

(4) 閉鎖型で特徴的な部門

図表 26 閉鎖型

影響力係数・感応度係数(閉鎖型、108部門)
(基準値(1,1)からの距離が0.8以上の部門)



資料：矢掛町産業連関表（2019年）、108部門表 / 岡山県産業連関表（2015年）、108部門変換表

矢掛町で影響力係数が高いのは自家輸送、プラスチック製品などである。一方、感応度係数が高いのは、その他の対事業所サービス、卸売、電力などある。

岡山県で影響力係数が高いのは、有機化学工業製品、鋼材、自動車部品・同附属品などである。また、感応度係数が高いのは、石炭・原油・天然ガス、卸売、その他の対事業所サービスなどである。

5. 町内歩留まり率

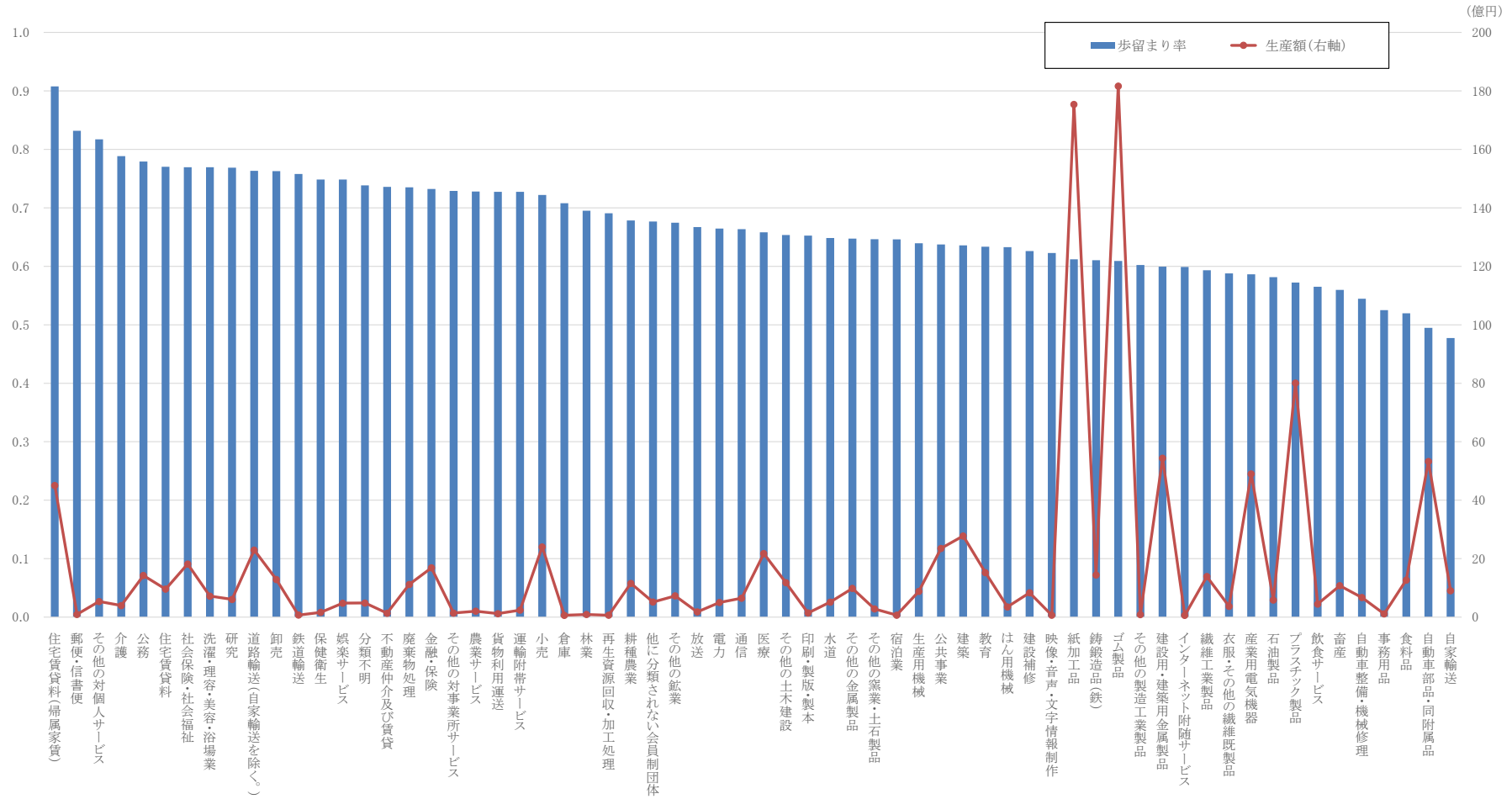
地域内で発生した最終需要は、取引を通じて地域内外の事業所で生産を誘発する。この生産誘発額を1とした場合、地域内の生産誘発額の割合を歩留まり率という。

原材料や利用サービスなどの一部は地域外から移輸入することが多い。移輸入に伴って生産額は外部に流出し、歩留まり率は1を下回ることが多い。

矢掛町産業連関表108部門表で歩留まり率をみる。また、生産額と合わせみることで、影響力の大きさについても考察できる。

矢掛町で歩留まり率が高いのは、「その他の対個人サービス」、「介護」、「公務」、「洗濯・理容・美容・浴場業」などであり0.75を上回った。また、生産額の最も大きい「ゴム製品」の歩留まり率は0.609、次いで大きい「紙加工品」では同0.612であった。

図表 27 歩留まり率



資料：矢掛町産業連関表（2018年）、108部門表

第3章 産業連関表を用いた経済波及効果分析

矢掛町産業連関表（2019年）を用いて、経済波及効果のシミュレーション分析をする。分析は、観光客の消費による効果と、建設投資による効果の2種類について行う。

なお、観光の効果と建設の効果とでは発生需要額の算出過程や関連する産業の構造が異なるため、シミュレーション分析結果の比較には注意を要する。

1. 観光入込客数の増加

矢掛町観光振興ビジョンによると、コロナ前の2019年の観光入込客数は、宿泊客数が6,869人、日帰り客数が334,498人であった。

この数値を基に、コロナ後の今後において、2019年と比べて観光入込客数が20%増加する場合を想定したシミュレーション分析をおこなう。

まず、発生需要額を求め、次いで、経済波及効果額を求める。

(1) 発生需要額の想定

2019年の矢掛町の観光入込客数を1.2倍すると、宿泊客数が8,243人、日帰り客数が401,398人になる。それぞれの消費単価を、「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究(2015年版)」(観光庁)を参考に設定すると、宿泊客が19,802円/人、日帰り客が2,504円/人になる。それぞれの客数と消費単価を乗じると、矢掛町に来た観光客が町の内外で消費する金額の総額が、宿泊客と日帰り客別に求められる。

宿泊客では1億63百万円、日帰り客では10億5百万円、合わせて11億68百万円になる。このうち、町内で必ず消費される金額は4億92百万円であり、残りの6億77百万円の一部は町外にも流出すると考えられる。

図表 28 想定した観光入込客数による発生需要額

	合計		
		町内のみ	町内+町外
発生需要額	11億68百万円	4億92百万円	6億77百万円
宿泊客	1億63百万円	1億37百万円	26百万円
日帰り客	10億5百万円	3億55百万円	6億51百万円

※百万円未満を四捨五入した数値

(2) 経済波及効果額の推計

a. 直接効果

観光消費の支出による町内需要発生額は11億68百万円と推計され、これらの支出は移輸入分を除き6億73百万円の町内生産を発生させた。これにより3億23百万円の粗付加価値と、2億2百万円の雇用者所得が発生したものと推計される。

b. 第一次波及効果

観光消費の支出によって生じた直接的な生産活動が産業全体に波及する第一次波及効果は90百万円であり51百万円の粗付加価値と22百万円の雇用者所得を発生させたものと推計される。

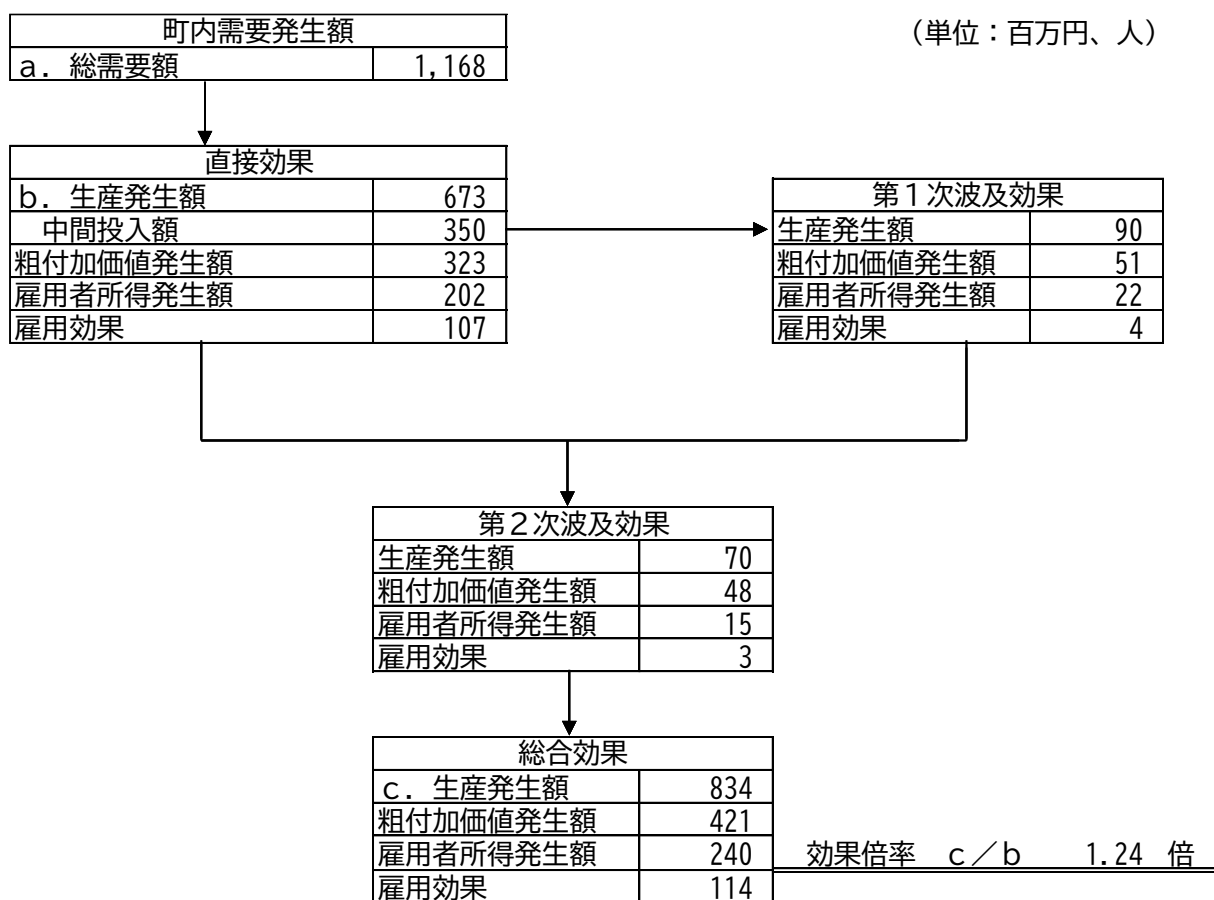
c. 第二次波及効果

観光消費の支出に伴う雇用者所得の増加により生み出される第二次波及効果は70百万円であり、48百万円の粗付加価値と、15百万円の雇用者所得を発生させたものと推計される。

d. 総合効果

以上の直接効果、第一次波及効果、第二次波及効果を合わせて、当初の町内生産額の1.24倍に相当する8億34百万円が発生したものと推計される。これによる粗付加価値の増加は4億21百万円、雇用者所得の増加は2億40百万円、雇用効果は114人と推計される。

図表 29 観光入込客数の増加による経済波及効果



2. 建設投資の効果

矢掛町産業連関表を用いることで、矢掛町内の建設投資の増加が町内にもたらす経済波及効果を求めることができる。ここでは、公共投資が10億円発生した場合について、シミュレーション分析をおこなう。

(1) 発生需要額の想定

建設投資では、投資項目に対応して金額を振り分けることができる。今回の分析では、公共投資のうち、一般道路で5億円、河川・下水道・その他で5億円の事業が発生したとする。

図表 30 想定した公共投資の発生額

投資内容	金額
公共事業	
道路関係公共事業	
道路	
一般道路	5億円
有料道路	
区画整理	
河川・下水道・その他	5億円
治水	
下水道	
港湾・漁港	
空港	
廃棄物処理施設	
公園	
災害復旧	
合計	10億円

(2) 経済波及効果額の推計

a. 直接効果

建設投資の支出による町内需要発生額は 10 億円と推計され、10 億円の町内生産を発生させた。これにより 4 億 85 百万円の粗付加価値と、3 億 67 百万円の雇用者所得が発生したものと推計される。

b. 第一次波及効果

建設投資の支出によって生じた直接的な生産活動が産業全体に波及する第一次波及効果は 98 百万円であり 49 百万円の粗付加価値と 23 百万円の雇用者所得を発生させたものと推計される。

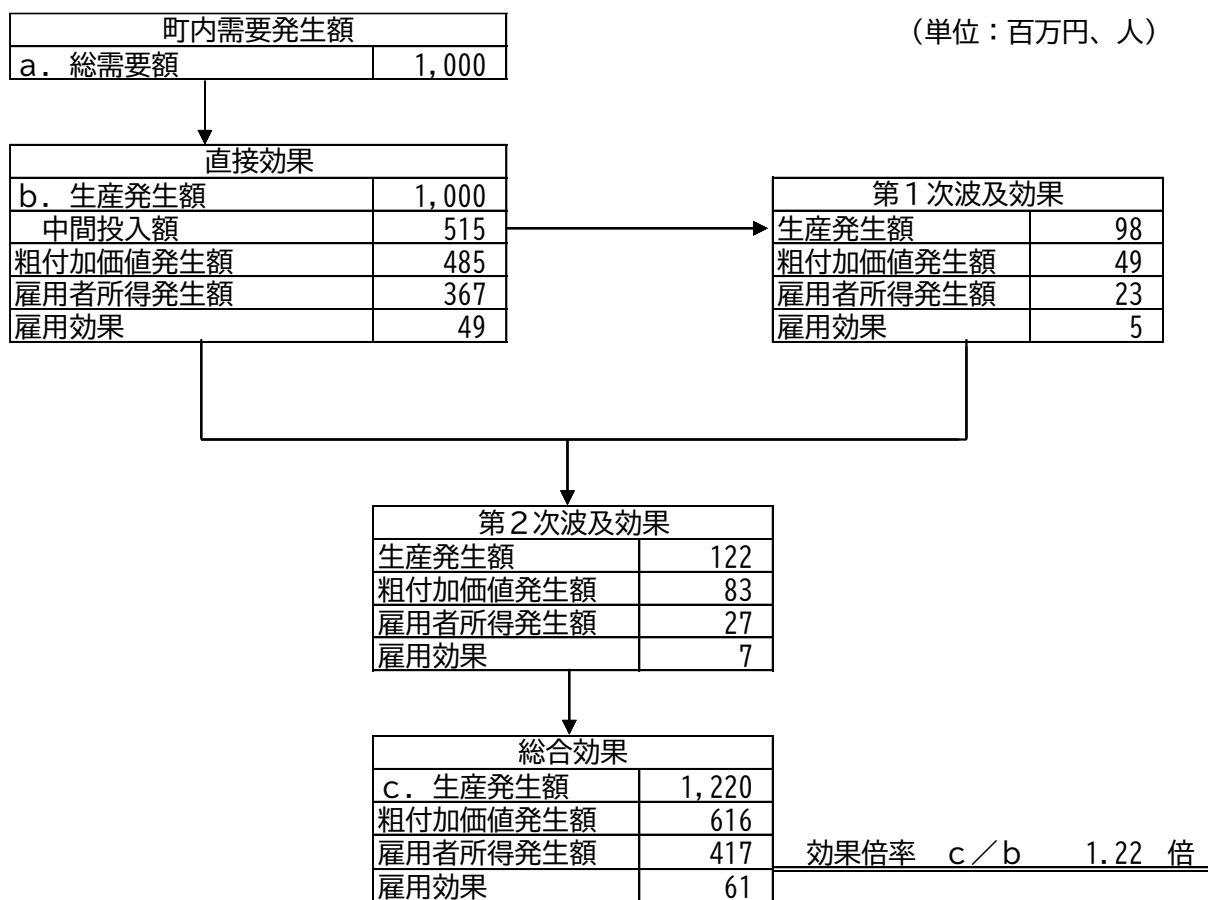
c. 第二次波及効果

建設投資の支出に伴う雇用者所得の増加により生み出される第二次波及効果は 1 億 22 百万円であり、83 百万円の粗付加価値と、27 百万円の雇用者所得を発生させたものと推計される。

d. 総合効果

以上の直接効果、第一次波及効果、第二次波及効果を合わせて、当初の町内生産額の 1.22 倍に相当する 12 億 20 百万円が発生したものと推計される。これによる粗付加価値の増加は 6 億 16 百万円、雇用者所得の増加は 4 億 17 百万円、雇用効果は 61 人と推計される。

図表 31 公共投資による経済波及効果



第4章 矢掛町の買い物動向調査

1. 調査の概要

矢掛町住民の支出構造を把握することを目的に、矢掛町在住の個人を対象に「お買物の実態についてのアンケート調査」を実施した。調査結果は産業連関表の作成のほか、住民数の変化による町内経済への影響分析で役立てることができる。

●アンケート調査の概要

調査時期

2022年12月中旬 ～ 2023年1月中旬

調査方法

町内20歳から80歳までの無作為に1,000人抽出して、アンケート票を郵送

回答数

総回答数 314人

有効回答数 309人

2. 調査結果

(1) 年齢別

年齢別では⑩65歳以上が過半数となった。これは、複数の年齢層がまとめられているためである。2020年の国勢調査では、矢掛町人口のうち65歳以上の割合は約4割であるため、他の年齢階層と比べて高い回答傾向となった。

図表 32 年齢別にみた回答者数

	回答数	回答割合
①19～24歳	11	3.6%
②25～29歳	9	2.9%
③30～34歳	10	3.3%
④35～39歳	17	5.5%
⑤40～44歳	9	2.9%
⑥45～49歳	21	6.8%
⑦50～54歳	16	5.2%
⑧55～60歳	23	7.5%
⑨60～64歳	20	6.5%
⑩65歳以上	171	55.7%
合計	307	100.0%

(2) 性別

性別では②女性が①男性を約 10 ポイント上回った。2020 年の国勢調査では、約 5 ポイントの差であるため、今回の調査では女性の回答傾向が比較的高かった。

図表 33 性別にみた回答者数

	回答数	回答割合
①男性	135	44.1%
②女性	171	55.9%
合計	306	100.0%

(3) 毎月の平均収入（ボーナス、奨学金、仕送り等を含む）

毎月の平均収入では、②10万円～20万円が最も多く、約3割を占めた。これに、①10万円未満、③20万円～30万円が続いた。これら①～③で85%以上を占めた。

図表 34 毎月の平均収入別にみた回答者数

	回答数	回答割合
①10万円未満	87	28.4%
②10万円～20万円	113	36.9%
③20万円～30万円	61	19.9%
④30万円～40万円	20	6.5%
⑤40万円～50万円	12	3.9%
⑥50万円～60万円	7	2.3%
⑦60万円～70万円	3	1.0%
⑧70万円～80万円	0	0.0%
⑨80万円以上	3	1.0%
合計	306	100.0%

(4) 職業

職業では、⑦その他が多く約3割を占めた。記入欄では、年金生活者やパート従業員などが多かった。

図表 35 職業別にみた回答者数

	回答数	回答割合
①会社・団体役員	9	2.9%
②会社員	77	25.2%
③個人事業主	14	4.6%
④公務員	19	6.2%
⑤学生・生徒	6	2.0%
⑥家事従事者	70	22.9%
⑦その他	111	36.3%
合計	306	100.0%

(5) 国籍

国籍では、①日本が99%とほとんどを占めた。②その他である外国審の割合は、矢掛町内では1%程度と考えられる。

図表 36 国籍別にみた回答者数

	回答数	回答割合
①日本	306	99.0%
②その他	3	1.0%
合計	309	100.0%

(6) 平均支出額

平均支出額は、①食費が 30.2 千円で最も多く、②水道光熱費の 14.9 千円、③通信費の 9.7 千円が続いた。

図表 37 平均支出額 (単位：千円)

	支出総額	支出場所					
		矢掛町内	井原市	倉敷市	県内	県外	ネット・通販
①食費	30.2	19.9	1.5	4.6	2.7	1.1	0.4
②水道光熱費	14.9	-	-	-	-	-	-
③通信費	9.7	-	-	-	-	-	-
④娯楽費	7.6	1.4	0.4	2.2	1.5	1.4	0.6
⑤交通費	8.8	6.3	0.3	1.0	0.7	0.4	0.0
⑥美容費	4.9	2.7	0.1	0.9	0.6	0.5	0.0
⑦医療費	6.0	3.3	0.4	1.6	0.5	0.1	0.0
⑧被服費	4.8	1.2	0.1	1.8	0.8	0.3	0.6
⑨日用雑貨	4.8	3.2	0.2	0.7	0.3	0.2	0.2
⑩教育費	4.0	1.1	0.2	0.4	1.6	0.3	0.3
⑪仕送り	6.7	3.8	0.0	0.2	0.8	1.9	0.0
⑫その他	8.8	5.2	0.3	0.6	0.7	0.7	1.4
合計	110.9	48.1	3.7	14.0	10.3	6.8	3.5

(7) 支出場所

支出場所を費目別の支出金額の割合で見ると、合計では矢掛町内が 43.4%であった。倉敷市が 12.6%、県内のそれ以外の市町村が 9.3%であった。

費目別では、⑤交通費、⑨日用雑貨、①食費では矢掛町内が 6 割以上であった。一方、④娯楽費、⑧被服費は 2 割前後と低かった。

図表 38 支出した場所（金額の割合）

	支出総額	支出場所					
		矢掛町内	井原市	倉敷市	県内	県外	ネット・通販
①食費	100.0%	66.0%	4.8%	15.2%	8.8%	3.7%	1.5%
②水道光熱費	100.0%	-	-	-	-	-	-
③通信費	100.0%	-	-	-	-	-	-
④娯楽費	100.0%	18.1%	5.9%	29.2%	20.1%	18.4%	8.3%
⑤交通費	100.0%	72.3%	3.9%	11.1%	8.1%	4.6%	0.0%
⑥美容費	100.0%	56.3%	2.6%	18.6%	13.0%	9.5%	0.0%
⑦医療費	100.0%	55.5%	7.3%	26.1%	8.8%	2.3%	0.0%
⑧被服費	100.0%	24.0%	2.9%	37.4%	16.3%	6.9%	12.4%
⑨日用雑貨	100.0%	66.3%	5.0%	14.8%	6.8%	3.5%	3.6%
⑩教育費	100.0%	28.9%	5.7%	11.2%	40.7%	6.3%	7.1%
⑪仕送り	100.0%	56.4%	0.3%	2.5%	12.4%	28.5%	0.0%
⑫その他	100.0%	59.1%	2.9%	6.9%	8.3%	7.4%	15.4%
合計	100.0%	43.4%	3.3%	12.6%	9.3%	6.1%	3.1%

